

修行負担軽減「多彩な経験生かして」

卒業後、住職の受験資格

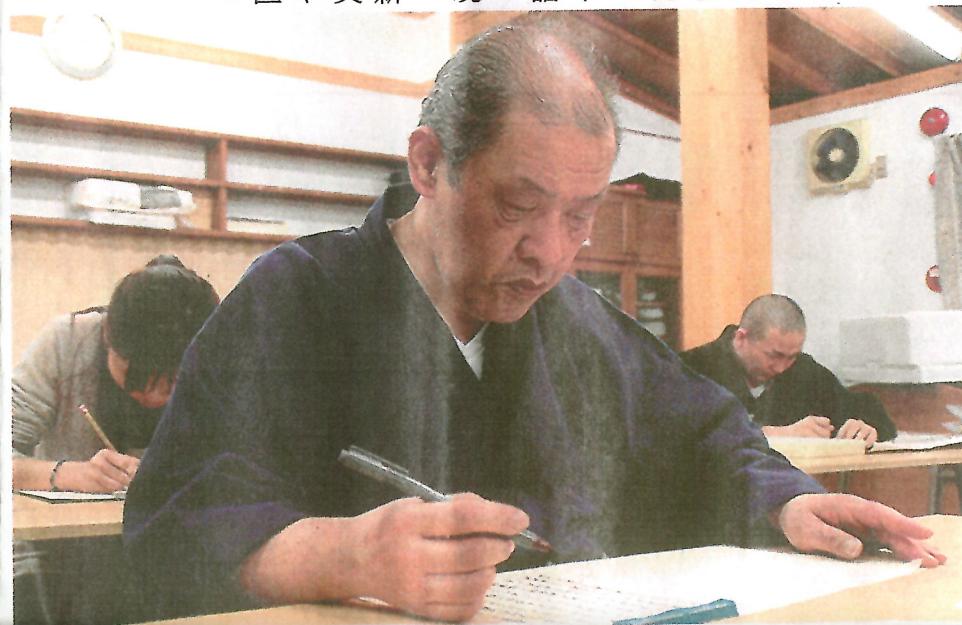
正眼短大は、プロ野球・元巨人の川上哲治さんが修行したことでも知られる臨済宗正眼寺が母体。中高年向け講座は住職兼学長の山川宗玄さんが発案した。学生は通常、四ヶ月間、仏教や禅の基礎を学び、出家して寺の道場に入門。翌日未明まで、座禅や読経、境内の掃除などの作務がみっちり詰まつた毎日を送る。服装は夏も冬も薄い藍染めの衣姿に、はだし一般の修行僧はその級建築士に元市役所職た。

生活を一年続けるが、眞、元靴販売店主、最新講座の学生は一年間に割り振り、修行の間に茶道や陶芸の講義を二、三週間ずつ挟む。医師、長浜孝さん(五)東京都世田谷区の獣医師、長浜孝さん(五)は、仕事で立ち会つたでの寝起きも許し、体力を回復させる。

高裁の元書記官など、多彩な経歴だ。

岐阜の短大養成講座

中高年世代を対象にした全国でも珍しい僧侶養成講座を、岐阜県美濃加茂市の正眼短大が四月から開講した。カリキュラムを工夫し、体に負担のある修行が難しいとされた五六十代に僧侶となる道が開かれ、一期生の男性五人が学び始めた。(中野祐紀)



第二の人生 僧侶入門

その後は馬専門の外科医を開業。オグリキヤツプなど名馬の治療に参加する一方、骨折した競走馬五十頭近くを安楽死させてきた。

「修行は体力的に厳しくなる」と聞き、あきらめ

いた。「この手で奪つた命の数だけでも五千じやきかない」と話す。

日本獣医畜産大(現日本獣医生命科学大)の研究室に在籍中、新一期生は、東京都出薬研究のため動物実験を繰り返し、イヌやラットを一度に數十匹死なせることもあつた。



中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211



紙面から

かんぽ新聞
熱気球
クルド田